

Part 1

ラジオの力、言葉の力

顔が見えないからこそ届く言葉がある。
ラジオは、人々の暮らしとともに言葉を届けてきた。
声を持つ力と、ラジオだからこそ生まれる
言葉の豊かさを考える。

に分かれたとかもない？
朝井 うん、誰も何も聴いてなかった。
加藤 私は1983年生まれで地元が北海道なんです、中学時代にクラスでローカルラジオが流行った時期があったんです。夜9時からの音楽番組をみんなが聴いていて、『船守さちこのスーパールンキング』（STVラジオ）派と『ベストテンほっかいどう』（HBCラジオ）派に分



朝井 加藤さんとラジオをやることになったきっかけは、コネです。
加藤 ニッポン放送のプロデューサー・富山さんが前職のNHKにいたときから、お仕事をしていた。富山さんが転職した後、miwaさんがオールナイトニッポンで私の小説を紹介してくれたことがきっかけで、食事をやることになりました。そのときに「加藤さん、オールナイト（ニッポン）をやりますか」と言ってもらったので、誰か誘わなきゃと思って「私の

の続きは本誌でどうぞ！

ラジオを始めたきっかけ

朝井 大きな分断が教室に横たわって。かかれていた。
朝井 大きな分断が教室に横たわって。
加藤 私は『スーパールンキング』派で、番組に曲のリクエストを送って下敷きをもらったこともあります。小学校のときに『ボキャブラ天国』（フジテレビ）をテレビで観て、爆笑問題とかお笑いが好きになったんです。それで今も続いている『爆笑問題カーボーイ』（TBSラジオ）は中学のころから好きで聴いていました。朝井くんと共通しているのは、始まった当初から『オードリーのオールナイトニッポン』を聴いていることですね。

『信頼できない語り手』の裏側

対談

朝井リョウ（小説家）

加藤千恵（歌人）

2015年に『オールナイトニッポンO（ZERO）』で共にパーソナリティを務めた、作家の朝井リョウと加藤千恵。2026年2月からはポッドキャストで『信頼できない語り手』をスタート。Apple Podcastの2026年上半期ベストに選ばれるなど話題を集めている。作家はポッドキャストの現場でどのようなことを考えているのだろうか。

——お二人のラジオ歴から教えてください。

朝井リョウ（以下、朝井） ラジオを聴くようになったのは上京してからです。何を最初に聴いたのか思い出せないのですが、周波数を合わせるタイプのラジオではなく、iPadやiPodに入れた音源を聴いていました。

加藤千恵（以下、加藤） 中学時代に深夜ラジオを聴いたりしなかったの？

朝井 地元（岐阜県）にいたときは文化に触れることが一切なかったので、基本、上京してからだったはず。ただどう聴き始めたとか、細かいことは覚えていなくて、いずれにしても大学時代からです。

加藤 学校で『オールナイトニッポン』（ニッポン放送）派とか『JUNK』（TBSラジオ）派